

進むオンライン化、新たな「弱者」作らない 行政手続きも災害情報も…変わる暮らし

会員記事

2020年12月3日 5時00分

シェア

ツイート

ブックマーク

スクラップ

メール

印刷

[list](#)

0



アプリの入れ方を学ぶスマホ教室の参加者＝川崎市高津区



暮らしのいろいろな場面でオンライン化が進む中、ITを使いこなせない人が置き去りにされることを心配する声もあります。そんな「デジタル格差」の解消をめざす取り組みが、一部で動き始めています。（栗田優美）

■ N P O シニア教室「地道に続ける」

▽[ここから続き](#)

「アプリというのは、やりたい機能をまとめたプログラムのことです」

11月上旬、川崎市であったシニア向けスマホ教室。講師の梶田裕之（ゆうじ）さん（69）が、60～70代の10人に語りかけた。

梶田さんが理事を務める認定NPO法人「かわさき創造プロジェクト」と市が共催する教室で、参加者と講師はほぼ同世代。基本操作からネット検索、LINEの使い方などを6回に分けて学ぶ。この日は「アプリの入手と削除」「予定表」がテーマだった。

信頼性の見分け方、シニアにおすすめのアプリなどを解説しながら、一緒に実践する。機種によって使い方や表示される言葉が少しずつ違うため、NPOのメンバー3人が手助けする。

2時間の「授業」を終えた参加者の男性（63）は「すっかり疲れちゃった。家に帰って復習します」。6年ほど前からスマホを持っているが、使うのは通話とメールのみ。SNSなど新たな使い方で楽しみを広げたい、と参加した。「今までは電話などでもできたことが、ネットのみ、スマホのみになると、ついていけなさそうで心配です」

69歳の女性は、昨年の教室で基本的な操作は身につけた。さらに使いこなして買い物などにも挑戦したいと再び参加。行政の手続きなどがオンライン化する流れについては、「やり方が分からない時に、丁寧に教えてもらえるような進め方を」と求める。

NPOはIT系の会社に勤めていた人が多く、梶田さんもその一人。15年前からシニア向けのパソコン教室を続けてきた。梶田さんは「今の60、70代はパソコン操作ならできるが、スマホになるとお手上げ、という人も多い。次々に新しくなるものに対応しなければなら

ない難しさがある」と話す。格差解消のためには、今のような取り組みを地道に続けていく以外にないのでは、と考える。